

## 令和2年度 学校評価（自己評価）

	番号	評価項目		評価	次年度の課題
I 教育 理念 ・ 教育 目的	1	学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解されている。	2.8	学校理念は、「学生便覧」に掲載し、入学時説明会において、学生・保護者に周知している。また重点課題、目標値を設定し、教職員会議、運営会議にて、確認、周知している。	江戸川区医師会は区民の健康と地域医療を守り支える使命があり、看護師養成もその一環である。教育理念は「豊かな人間性をはぐみ生命と人間の尊厳を基盤とし、社会の変化に対応できる幅広い能力を備えて、看護の実践に必要な科学的思考・倫理的判断力を養い、保健・医療・福祉チームの一員として地域社会に貢献できる人材を育てる」としている。また、教育目標等に看護の対象を生活者としてとらえると明示している。医師会看護専門学校必要性を広報していくことで、地域に必要な学校としての認知度を上げていきたい。
	2	組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげている。		実施できていなかったが、年度内実施に向けて整備している。	
	3	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定している。		昨年度より、学校評価は関係者評価も含め組織的に実施し外部公開する準備を整えている。	
	4	教員会議が、学年及び各看護学の目標達成や年間指導計画実施の場として機能しているか。		教員会議は、各科とも計画的に柔軟性を持って進めている。しかし、目標達成の評価や改善策の検討が不十分な状況がある。各科とも評価時期や改善策検討会議を計画的に進めるため、年度初めに年間計画に入れる。	
II 教育 課程 ・ 教育 活動	5	卒業時において持つべき看護師の資質を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析している。	2.9	卒業生の特性から各学年の到達目標を設定し、明示している当校の卒業時の到達目標を意識できるよう、学年末にはこの目標から学生が自己評価している。各学年・卒業時の到達度は、各学年の最終実習（1年生；基礎看護学実習、2年生；老年看護学実習Ⅰ、精神看護学実習、3年生；統合実習）と各学年の科目の修得状況（平均点等）で概ね評価できる。	2022年のカリキュラム改正を見据え、領域横断の授業、入院中から在宅・地域で暮らす人を看護の対象として理解できるよう講義内容、教育課程の再編が必要になる。領域横断の授業では現在行っている解剖生理学のまとめや看護形態機能学の内容を生かし、課外活動等で行っている地域での健康に関するイベントなども科目内容に取り入れていくことも視野に入れる。今後も実習施設の管理者と協力しながら実習環境を整えていくように努める。
	6	学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっている。		これらの結果や社会のニーズから本年度は在宅看護概論、母性看護概論を1年生に修得する科目とした。また、実習もより段階的に学べるように基礎看護学実習、成人看護学実習Ⅰの内容を整理・変更している。在宅看護概論は、低学年より、看護の継続性や在宅での療養生活を視野に入れた学びとなるように2年生から1年生に移動している。在宅看護概論、母性看護概論が1年生に移動したことで2年生の講義の過密度も緩和された。	
	7	授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしている。		シラバスについては、各領域毎で、毎年見直しを行っている。テキスト改訂に合わせて内容の見直しも行っている。講義内容は、学生の状況に合わせた内容とするために、必要時外部講師にも情報提供を行っている。	
	8	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している。		概ね、シラバスに沿った講義になっている。外部講師の講義内容や方法に工夫を求める意見も一部あり課題がある。	
	9	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善している。		授業方法や内容は教員が共通の研修に参加し、思考力を伸ばし、主体的に学ぶための方法を研鑽している。各領域で、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価、協同学習、シミュレーションを取り入れた講義などに取り組んでいる。	
	10	学生の単位取得にむけた支援を実施している。		科目の習得が止むを得ず困難な場合は、補講や追試等の配慮を積極的に行っている。成績不振者についても学習指導を重ねながら、科目担当講師への再々試験等の考慮をお願いしている。	
11	実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。	成人Ⅰ実習では、2施設での実習であり学生が集中するため、十分な学習場所の確保が難しい時もあった。実習指導者は、ほぼ毎日配置されているが、固定は難しい。学生の実習病棟が偏らないように、マトリックスを作成しチェックしている。教員の専門性が活かされた領域の実習であるとは限らない現状であるが、専門性を高めるための学習・研鑽をしている。また実習指導者については、実習期間中、出来る限り同一であるよう配慮をお願いしていく。			

令和年2度 学校評価（自己評価）

	番号	評価項目		評価	次年度の課題
II 教育課程・教育活動	12	実習指導者と教員の役割を明確にし、お互いに協力し実習指導者にあたる体制がある。	2.9	実習進度に合わせて年1～2回の実習指導者会議を開催、実習指導者とは事前打ち合わせ及び実習評価を行っている。主たる実習病院看護部とは、臨地指導者研修にも教員が参加し学生指導の共通理解から実習環境を整えている。平成31年度は、当校で行われた研修会に臨地実習先の指導者も参加している。実習要項は毎年最新し実習場所へ配布しており、その中で指導者・教員の役割について明文化している。	実習病院との連携
	13	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公正性・妥当性が保たれている。		評価基準は書面で提示し学生の状況に合わせて基準を見直している。実習評価は、臨床指導者と教員の複数で実施している。	
	14	実習時の患者への倫理的配慮を励行している。		受け持ち患者（家族）には、文書と口頭で実習同意を得ている。倫理的配慮に基づく内容を盛り込んだ実習要項に基づき、実習施設の合意を得て、実習を行っている。	
	15	実習時のインシデントアクシデント等を分析し、学生指導に活かしている。		実習前に講義を通しインシデント・アクシデントについて意識付けしている。今年度より、ヒヤリハット報告を学生にも公開している。医療安全の基本を理解し危険予知の感受性を高めていけるように努めている。	経年的な分析
	16	学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めている。		講義終了後、アンケートを行い授業評価を行っている。3学年の実習評価については、実習時期が6カ月に及び時期も学生個々で違うため、アンケートの回収率が低いので、3年生に都度、声掛けを行っている状況。学内には授業評価を掲示、講師には結果を郵送している。実習評価は年1回、実習指導者会議で公表し意見を求めている。講義については、講師と内容を協議し理解を求め改善に努めている。	アンケート調査の集計・分析
	17	教科外活動等、学びを深め、積極的に行動し、チーム力を高めていける機会がある		グループで協力して学習を進める機会を設けている。今年は、異学年での交流を通して、低学年が実習のイメージができるように、上級生へ相談できる機会を作った。他校とはスポーツ交流会を通し懇親を図る。	現行継続
III 入学・卒業対策	18	より多くの応募者を確保することに努めている。	3.0	受験者確保のため、進学相談会、オープンキャンパス、高校訪問等で、当校の特徴である「多数の実習施設で看護体験でき、看護の基本に基づいた実践ができる。就職先を自由に選択できる」をPRしている。高校訪問では、受験生の状況を情報収集している。推薦入学手続き者に対する学習習慣の定着や看護に対する興味を高めるため、また環境への適応などを目的として、入学前学習や訪問等を実施している。高校へも案内し、その特色を打ち出し、受験者数増につながるよう努めている。	受験生確保策としては、昨年度、オープンキャンパスを計9回開催、併せて、学校説明会、入試枠〔AO入試・指定校・社会人・一般入試〕の制度を説明した。この為、受験者は81名に登り、定員を超える入学を確保することができた。行政の協力による町内会掲示板への学校ポスターの掲示、医師会員の医療機関でのポスターの掲示など、地域のニーズ合った学生を募集している。
	19	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいる。		昨年度は、国家試験合格率が89.7%と全国平均並みであった。今年度は目標を100%合格とし、3年度計画で、基礎力の向上、協同学習の方法を取り入れ、ゼミを業者模試と連携させ、復習、根拠の定着に力を入れている。また、成績低迷者の個人面接や、模試の振り返りの支援なども継続的に実施している。	国家試験合格率の向上に向けて学習支援を継続していく。
	20	1人でも多く、また質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っている。		退学者は令和2年度2.9%（令和1年度2.7%、30年度3.3%）であり、理由は進路変更・学業不振が多い。学習支援・相談を継続的にやり、退学者の減少を図る。定期面接も継続し、学習支援、生活支援等の相談を行っている。各学年で保護者懇談会も実施し、学生状況の共有と、今後のスケジュールを説明し、保護者と連携し学生支援を行っている。	
	21	卒業生への支援を行っている。		ホームページから、卒業生が必要な支援が得られるよう整備している。	
	22	卒業生の就職率を高めるよう努めている。		就職率はほぼ100%である。卒業生の約80%は東京都内に就職している。地域に必要な看護師養成の学校となっている。	

令和2年度 学校評価（自己評価）

	番号	評価項目		評価	次年度の課題
IV 学生生活への支援	24	経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用している。	2.8	学生相談室（メンタルケア）開室、毎月2～3回17:00～18:30まで、専任の臨床心理士・教育カウンセラーが実施している。2021年4月からの授業料等減免と給付型奨学金支給の対象校を目指している。また、経済的な理由で退学する学生の学習継続支援ができないか話し合い、分納や奨学金入金後の納付など納入金規定の見直しを提案している。	学習支援の強化
	25	学生の身体的側面の健康確保に努めている。		1年に一度の健康診断を実施している。本年度は、学校医による診察を経て、専門医での診察を指導し、結果報告とした。例年は、肝炎ワクチンやその他の予防接種、時期的なインフルエンザワクチンの接種励行、保健室の環境整備や利用状況の把握、手洗い・マスク着用等の感染対策の実施体調不良時の受診行動の徹底を行っている。	入学時からの健康管理の能力の育成
	26	図書委員サークル活動などの学生の自主的な活動を支援している。		学園祭『えどかん祭』を通じて地域の町内会や自治会、ボランティアサークルの活動を支援している。	現行継続
V 管理運営・財政	27	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っている。	2.7	必要な教育経費と管理経費を予算化し執行している。授業料未納は個別対応で滞納額は微少である。学校施設全体の電気使用量の節約を図り経費節減、簡易な修繕等は内部処理とし経費削減を図った。	経年的な購入計画
	28	学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っている。		患者情報の取り扱い、学校便覧生活ガイドに規定し、実習前のガイダンスでも学生へ周知する機会を作っている。記録は卒業時に廃棄できるようにルールを決め管理を行っている。	現行継続
	29	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めている。		江戸川区総合防災訓練に看護学生として参加し、傷病者役、医薬品の搬送役、担架による患者搬送などを体験した。教職員による自衛消防隊を編成し、隣接の西瑞江公園を避難場所に想定した避難訓練を年1回、職員の防災訓練を年1回実施している。	災害時の安否確認手段（セコム安否確認システムの周知・徹底）
	30	学校運営に学生の意見が反映されるように努めている。		全学年に学年担当教員や就職担当教員とが定期的に交流を図り、学生とのコミュニケーションを図っている。また、学生からの要望があれば、職員会議で検討している。	学生アンケートの実施と評価
VI 施設設備	31	施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっている。	2.8	学校内はバリアフリー、定期点検の実施で基準をクリアできている。	日常の管理より、安全な施設設備、学習効果が発揮できるよう計画的に整備していく。
	32	教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されている。		学生のシミュレーション教育を充実するように、モデル等教材・教具の購入と修繕を計画的に行っている。情報機器等の整備等している。	
	33	学生のための福利厚生施設・設備は整っている。		長期休業中でも指定した期間内に学内使用を決め利用可能である。	
	34	図書は利用しやすく学生に十分活用されている。		【1回目の緊急事態宣言：2020年4月7日～5月25日】が開け、落ち着きを見せた。昼休み中の図書館利用はお盆期間を除く午前9時～午後7時としている。試験期間を設け開館したが、不要不急の外出制限を受け、学生の利用は多くは無かった。学生一人一人の意識が高まり不明図書が年間1～2冊となっている。	現行継続
	35	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしている。		指定規則に沿い、演習の前後で物品を確認し、必要量を常に確保している。物品は予算を組み、計画的に購入・修繕している。	

## 令和2年度 学校評価（自己評価）

	番号	評価項目		評価	次年度の課題
VII 教 職 員 の 育 成	37	教員のキャリアに応じた目標設定があり、各教員がそれに向かい、個別に目標設定し達成度の評価をしている。	2.4	専任教員養成講習会及び教務主任養成講習会ガイドラインより、看護教職員の教育実践力と講習会終了時における到達目標と主な教育内容について、教員の経験年数に応じた、能力・項目・達成目標を定め、評価（面談）している。	学生の課題を踏まえた研修参加のための、費用の確保、研修参加の奨励、実習環境をと整えるための研修を継続していく。教員養成研修に参加できる人材育成を含め教員の確保を行なう。
	38	学会、研修会に参加する体制を整えている。また研究活動に取り組んでいる。		年間を通し、それぞれの教員が研修や学会に計画的に参加できるように、予算・時間の確保ができています。しかし、研究活動は個人で行っている。	
	39	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがある。		教員が参加した研修の報告、研修資料を回覧し情報を共有している。	
	40	教員の指導力・授業力育成、質向上の取り組みをしている。		各教員が研修内容を出来る範囲で各自の講義に活用している。教授内容の検討や内容の活用を行っている。科目は限られているが講義の参観や総評の機会を設けている。	
VIII 広 報 ・ 地 域 活 動	41	学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしている。	2.9	HP、インスタグラム等を利用した広報活動を行っている。アンケート結果からも、HPやインスタグラムを見てのオープンキャンパスの参加や受験に至っている。	高校生に限らず、小・中学生に向けた看護を職業と考える機会に参加し看護に興味を持っていただきそれらを通じ江戸川区医師会看護専門学校の必要性を広報していくことで、地域に必要な学校としての認知度を上げていきたい。
	42	地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っている。		地域の老人クラブのお年寄りとの交流やグループホームさんぼみちの定期訪問、湿原マラソンやふれあい広場等のボランティア活動に参加し、地域のニーズに合った貢献活動を定期的に行い、好評を得、学生の学びとなっている。	評価内容は学校運営委員会等で報告され、次年度以降の改善に取り組む。